

佳作

勇気のひまわり

群馬県 高崎市立中川小学校六年 白田 咲葉

私は習い事でバレーボールをしています。その中で私の目標はAクラスという一番上のクラスに行くことです。

今年の春、Aクラスになれるチャンスの大会がありました。だけど、その大会でAクラスになることはできませんでした。

私はとてもくやしくて、負けた理由を考えてみました。すぐに出てきたのがチームワークでした。その相手に対して技術は絶対に負けていませんでした。ただ、味方の子がミスをしてしまっても何も声をかけずにそれを繰り返してしまい、空気が重くなってしまい負けてしまいました。

次のチャンスは夏です。かんとくは夏に向けて練習試合をたくさん組んでくれたり、私たちに足りないものをたくさん教えてくれました。だけど、その練習はとても大変でした。

何度も何度もやめたいと思いました。

だけど、そんな時に支えてくれた、親・チームメイト・色々な人の支えで立ち直ることができました。できていないことをしかってくれるかんとくも支えてくれました。

夏の大会、三日前ぐらいからとてもきんちょうしっていました。すると私たちの気持ち伝わったのか、かんとくが、

「そんなにきんちょうしなくて大丈夫。楽しんでやれば絶対勝てるから。」

と言ってくれました。

私はその言葉にとても救われました。そのおかげできんちょうという気持ちより絶対に勝つという前向きでやる気な気持ちがとても大きかったです。

ついに夏の大会当日がやってきました。チームメイトを見ると、やる気に満ちあふれていて今の私たちなら絶対に勝てると思いました。

そして自分たちの試合の出番がやってきました。一セット目、相手も自分たちもきんちょうしています。その中でエースが一点、二点と決めてくれました。だが、相手のエースも点をたくさん決めていきます。少し空気が重くなってしまったとき、勇気を出して、

「切りかえよう!!まだこれからだよ。」

と言ってみました。次の瞬間サーブ・スパイクで点を取り一セット目、勝つことができました。二セット目もその流れのまま勝ちとることができました。そして勝利と同時に夢のAクラスに行くことができました。

かんとくも一安心したような笑顔を見せてくれました。

試合が終わりみんなが集まると、
「あの時切りかえようって言ってくれてありがとう。」

とみんなが私に言ってくれました。その時、勇気を出してみんなに声をかけてよかったと春のことなど思い出して泣いてしまいました。